

仙台市秋保地区メガソーラー構想に反対します

蕃山21の会

蕃山21の会は、那覇市に本社を置くCES合同会社が仙台市太白区秋保地区と青葉区上愛子地区を結ぶ国道457号線の両側に広がる山林(600ha)を切り開き、メガソーラー(大規模太陽光発電所)を建設する構想に対し、次の理由から反対します。

1. 森林伐採による動植物の生態系の破壊

当該地区は、奥羽山脈に連なる自然豊かな場所で多くの動植物が生息しているが、森林伐採により、これらの動植物の生態系(生息地)に影響を与え、絶滅・減少が懸念される。当該地区周辺では、国指定特別天然記念物のニホンカモシカの生息が、また東側周辺地区では同特別天然記念物のイヌワシの飛来が確認されている。

2. 森林伐採による土砂災害・水質汚染の発生

森林には、保水力による「土砂崩壊防止機能」があり、また洪水や濁水を緩和し、河川の流量を安定させる「水源涵養機能」、さらには「水質浄化機能」を有するが、森林伐採により、これらの機能を阻害ないし喪失させてしまい、土砂崩壊の危険や土砂流出、さらには河川流量の減少や水質汚染等が懸念される。

3. 森林伐採による気候変動への悪影響

森林は、二酸化炭素(CO₂)を吸収する「地球温暖化防止機能」を持っており、森林を伐採すれば、この機能が失われ、地球温暖化・気候変動を加速させることになる。「気候変動」が懸念される昨今、森林の役割が一段と注目され、森林保護に向けた取組みが重要になってきている。

4. 太陽光パネル破損等による有害物質流出のおそれ

太陽光パネルには、危険な有害物質(カドミウム、鉛、セレン、ヒ素等)が含まれており、パネルの劣化・破損等により流出し、土壌や地下水の汚染、さらには名取川・広瀬川への流出による水道水の汚染が懸念される。

5. 太陽光パネル火災による重大災害発生のおそれ

太陽光パネルに火災が発生した場合、感電の恐れがあるため放水に長時間を要し、また太陽光パネルの破損による有害物質が漏出するなどの危険がある。今年4月に発生した西仙台カントリークラブでの火災発生で消火作業に長時間を要したことは実証済である。また強風の場合は、近隣住宅への延焼が懸念されるなど、一歩間違えれば、重大災害につながりかねない。

6. 景観破壊による生活環境への影響

当該地区は、秋保温泉・作並温泉につながり、また県立自然公園二口溪谷、磊々峽等の観光資源の一翼を担うと同時に、長きにわたって地域住民の平穏で豊かな文化的な生活の舞台となってきた。自然豊かな風景や美しい自然環境が破壊されることは、これら観光資源や歴史的・文化的価値等を損なうとともに、地域住民の生活環境を侵害することになる。

上記のように、森林は、生物多様性の保全、山地災害の防止、二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止や水源の涵養など、多面的な機能を持っています。

このメガソーラー計画は、これらの機能を阻害ないし喪失させ、自然を回復不能な程度に破壊しかねません。

太陽光発電等の再生可能エネルギーは、自然エネルギーを利用し、持続可能な地球環境を保護するためのものです。発電用太陽光パネルの設置によって、自然を回復不能な程度に破壊しようとすることは本末転倒です。

森林は、私たちの暮らしを支え、生命を守るかけがえのない財産です。森林を守ることは、私たちの生活を守ることです。一度失われた自然は、二度と取り戻すことができません。

蕃山21の会は、このメガソーラー計画に対し、明確に反対いたします。

以 上